

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

2023年度大障教定期大会

大障教は5月13日、2023年度定期大会を開催し、執行部から経過報告および運動方針案、「定年年齢引き上げ」による60歳を超えた組合員の組合費の取扱いについて、2022年度決算報告および2023年度予算案が提案されたのち、討論には8分会4専門部の12名が発言しました。討論を受けての採決で、すべての執行部提案が圧倒的多数の賛成で決定されました。大会には、大阪教職員組合をはじめ全教職員教育連や近畿ブロックの各組織から激励のメッセージが多数寄せられました。

安心して働き続けられる職場をつくらう

大会あいさつの中で西面友史委員長は、4月29日の新歓教研での三木裕和先生(立命館大学)の講演にふれて2つのことを述べました。一つは、青年教職員の講演への感想にあった「私は一度『教師に向いていない』と考えあきらめた瞬間があった。三木先生の講演を聞き本当にあきらめなくてよかったと思ひ、救われました」の声です。西面委員長は「多忙化が年々深刻化する今の学校現場は本当に



あいさつする西面委員長

大変です。しかし、いろんな先生が認められ、互いに支え合いながら安心して働ける学校づくりをすすめるため、いまこそ組合の仲間を増やすことが大切です」と力をこめました。

また西面委員長は、三木さんの「かつて学校に行けなかった子どもたちの『無念』の声を切り開いてきた」の話を紹介。「『過大・過密』『教室不足』『教員不足』等の課題は山積しており、様々な『無念』の声がこれまでになおふれています。子どもたちの成長と発達を保障するため教育条件整備を大きく進めましよう」と呼びかけました。

憲法と子どもの権利条約に立脚した

障害児教育の実現を

荒谷美里書記長は、経過報告と運動方針案の提案とともに、当面の取り組みとして、①府立支援学校の「過大・過密」「教室不足」の解消にむけて、府立支援学校の人権侵害ともいえる実態を知らせ、請願署名運動を軸に支援学校増設を求める世論と運動を広げよう。②「憲法改悪を許さない全国署名」

平和、いのち、くらしを壊す大

職場のとりくみをいきいき交流

討論では12名が発言。青年部の堀内代議員(枚方)は「仲間とつながり、元気になれる青年活動を広げていきたい」と発言。富田林の西岡代議員は「組合活動の『見える化』、チーム富文(とんし)を合言葉にがんばりたい」と決意。寄宿舎教員部の白木代議員(北観)は、寄宿舎における栄養教員の増員を勝ち取った組合活動の成果を報告しました。



すべての議案が可決され、団結がばらうで締めくくりました

北観の尾方代議員は、同校の本科保健療科募集停止の撤回を要求し、視覚障害者の権利保障を求めるとりくみを発言。栄養教員の林代議員(豊中)は、業務委託のため給食の質の低下と栄養教員の負担増の実態を告発しました。

藤井寺の東代議員は一斉定時退勤に関する職場アンケートを報告。寝屋川の佐野代議員と八尾の岩崎代議員は、知的障害支援学校の劣悪な学校環境と教員不足を改善する切実さを訴え、支援学校増設運

動への決意を述べました。

女性部の池田代議員(東住吉)は出生サポート休暇や産育休代替の前倒し任用などの要求前進を報告。四條畷はベテランの鈴木代議員と若手の辻田代議員の2名が発言し組合の世代継承と障害児教育の前進の大切さを発言しました。

中央聴覚の近友代議員は、粘り強い組合員拡大の取り組みを報告。泉南支援の奥野代議員は「憲法を理念に掲げた運動の力が平和を守ってきた。今が正念場」と力説しました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の

つうしん

「雑草と言う草はない」

この言葉を残したのは、高知県出身「日本の植物学の父」と言われる牧野富太郎だそう。彼は、九十四歳で亡くなるまで膨大な植物標本作製し、命名した植物は一五〇〇以上らしい。

この情報は最近仕入れた。それは、朝ドラ「らんまん」を観ているから。私が大好きなスピッツの影響を受けているあいみよんが、主題歌「愛の花」を作詞・作曲している。

土佐の造り酒屋で産まれた主人公は病弱で、酒造りに興味がある。一方、その姉は酒造りに興味がある。時代の制約もあり、「女は機械している」として、酒蔵に入ることを許されない。えげつない「男尊女卑」と、長男は家督を継ぐものとされる時代の制約を乗り越え、「自分らしさ」を求めて話は展開していく。

昔は朝ドラには興味なかったが、五〇歳を過ぎて、自身の人生を重ねて観ることができるようになったのか、結構のめり込んで観ている。話は変わるが、植物つながりと言うことで、五月二十四日の誕生花に「スズラン」がある。花言葉は、「あふれ出る美しさ」「希望」「幸福の再来」「純愛」だそう。

誕生花は、全ての日にある。いったい誰が決めたのだろうか。五月二十四日の誕生花には、あと二種類あり「ヘリオトロープ」「ムラサキツメクサ」もそうらしい。シロツメクサ、ムラサキツメクサなら知っているが……。

ちなみに、私の誕生花には誰も興味がないと思うが、それは内緒だ。何故かと言うと、私の誕生日は大切な人にしか教えていないからだ。

(久)

大障教定期大会 発言ダイジェスト(その1)

青年部のとりくみで、仲間とのつながりを

青年部 堀内代議員



今の青年教職員は、お互いにつながりをもつことが難しい状況があります。私も日々の仕事に追われ、心の余裕がありませんでした。しかし、

青年部委員会や教研に参加して、他校の先生と気持ちを共有することができ、「私だけじゃないんだな」と、その時の自分に安心することができました。
青年教職員は、さまざまなつらさを抱えていると思います。同僚性の築きにくさや、経験不足によるつらい気持ちや、解消できないまま、悩んでいます。子どもとじっくり向き合いたい、自分のなかで、刺

激を受け、教員としての今の自分を俯瞰でき、「明日からまた頑張ろう」という、希望がもてます。つながりが持ちにくくなっているからこそ、つながりが持てた時に得られる安心感や、心強さには、とても意味があると思います。青年部のとりくみを通じて、仲間とのつながりをもつてええたらと思います。



晴天の下、5月1日、第94回メーデーが扇町公園で開かれ、約2500人が参加し、ほぼコロナ禍前に戻す形で実施されました。

菅義人実行委員長(大阪労連議長)は、コロナ禍で自公政治と維新政治のゆがみと公共の脆弱性が浮き彫りになったと指摘し、大軍拡と改憲、社会保障削減などを押し進める岸田政権と、住民サービス切り捨て、大型開発とカジノ誘致に突き進む維新政治を批判し、「国にカジノ計画認可の取り消しを求めるたたかいを強め、府民の命と暮らしを守る府政への転換を目指そう。8時間働けば人間らしく暮らせる職場と社会の実現を求め、憲法を生かす政治の流れをつくろう」と呼びかけました。

集会後は、「憲法いかし、守ろう平和、カジノよりのち」と書かれたうちわを手に、久しぶりに参加者でコールをしながら、デモ行進をしました。



突然ですが、みなさんは自分が何のために生まれてきたのか考えたことはありますか？私は、何のために組員をやっている、何のためにこの学校に来たのかは、本当にずっと考えています。教員生活17

いろいろな人の助けがあって今がある 今度は自分の番

富田林支援学校分会 西岡代議員

年のうち、15年は小学校教員でした。毎日がむしやらに働いてきました。悩み、苦しみ、体調を崩し、辞めることも考えました。何とか教師を続けるなか、組合活動では、大教組の青年部長や単組の副委員長をさせてもらいました。こう言う立派な人間みたい

に聞こえますが、そうじゃない。まわりの仲間が素晴らしい。あつて今があります。同じ学部の先生たちとバレー

ボールや登山をするなどしてきました。「みんなとつながりたい、みんなをつなげたい」そんな思いで日々過ごしています。みんな毎日ぎりぎりの状態で働いています。でも、仲間がいるからがんばれる。今まで助けられてきた分、今度は自分の番だと思っています。「できることを、できるときに、できるだけする」と心がけて、まい進していきます。



とめよう大軍拡! いかそう9条! かがやけ憲法! 平和といのちと人権と 5.3おおさか総がり集会

日本国憲法施行から76年を迎えた憲法記念日の5月3日、扇町公園で総がり集会が開かれ、約5千人が参加しました。開会あいさつで、大阪憲法会議の丹羽徹さんは、「憲法9条を守れ!」の声を強め、憲法の精神を広げる運動をさらに進めていこう」と呼びかけました。メインスピーチでは弁護士の猿田佐世さん(新外交イニシアティブ代表)が、「安保3文書」の閣議決定は違憲、と岸田政権を厳しく批判し、非戦、軍隊の放棄と武力以外の方法による紛争解決を定めた憲法9条の強い影響力を指摘し、「必死の努力で平和憲法を若い世代につないでいこう」と呼びかけました。

立憲民主党、日本共産党、社会民主党、れいわ新選組の各代表のあいさつがあり、市民スピーチでは南西諸島の基地問題やカジノ、医療の問題について発言がありました。

集会の最後に、「とめよう大軍拡」「いかそう憲法」のポスターを参加者全員で掲げてアピールしました。集会後は、3つのコースに分かれて、「9条守れ!」とコールしながらパレードをしました。

